

●各種お取り付けを行います

■L端子検出へ変更

L端子検出
へ変更

(動作確認後、必要な場合のみ)

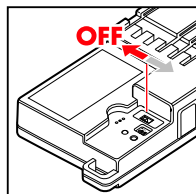


●ディーゼル車や軽自動車等でエンジンは始動しているのに数秒でエンジンが停止してしまい、自動的に再始動(リトライ)が行われてしまう場合、又は、エンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまう場合、L端子の配線が必要です。

STEP-1

●一旦本体のパワースwitchを切ります。

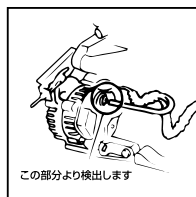
フットブレーキ配線を行った車両は、安全センサーケーブルが本体に接続されているので、一旦外して下さい。



STEP-2

●車両のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

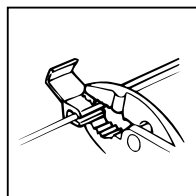
L端子線とはイグニッションONの時1~3V、エンジン駆動中12~14Vになる線です。
(必ずテスターをご使用下さい。)



STEP-3

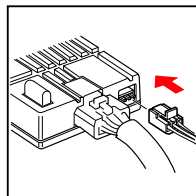
●安全センサーケーブルの灰色線を接続します。

付属の安全センサーケーブルの灰色線を、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に、付属の Electroタップで接続します。



STEP-4

●安全センサーケーブルを本体に接続します。



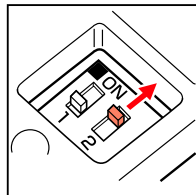
STEP-5

●モードスイッチの2番をONにします。



以上でL端子検出への変更は終了です。

パワースwitchをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来る事を確認して下さい。L端子配線が正しく接続されているか確認する事が出来ます。詳しくは13ページの「L端子誤配線チェック機能」を参照して下さい。



車両によって車室内からL端子線を接続出来るお車もあります。詳しくは技術サービスまでお問い合わせ下さい。

⚠ 注意

接触不良がおきない様に確実に取り付けて下さい。

⚠ 注意

灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因になる恐れがあります。

⚠ 注意

お取り付け時はリモコン始動出来ても、寒い時や暑い時に再始動してエンジンが始動しない場合はL端子配線が必要です。